



学校教育目標

- 進んで学習する生徒
- 明るく心やさしい生徒
- 体を鍛える生徒

『蕨東のあいさつひとつで笑東に』

東中だより

生徒数(名)
男子 177
女子 156
計 333

令和5年1月10日 第10号

Tel 048・442・5370 Fax 048・442・5377

さわやか相談室 Tel 048・445・6692

E-mail higasijh@warabi.ne.jp



志(こころざし)

校長 岡部 慎一

令和5年の年明けに際し、保護者、地域の皆様方には、健やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中も未だコロナ禍でいくつか制限もある中、本校教育活動へのご理解や応援を賜り、誠にありがとうございました。本年も一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

年末年始の報道を見ながら、昨年を振り返ったり、今年への思いを巡らせたりする中で、私が考えたのは、新型コロナウイルスの収束と平和への願いでした。そして、改めて、生徒一人一人を大切に信頼される学校になるよう、教職員とワンチームで頑張ろうと思います。

さて、私は生徒たちに向け、自分の夢や希望をもつこと、または、考えることが大切だ、と度々話しています。それは、人間は目標をもち、志を定めることで、生活の仕方や生き方がきちんと整ってくると言われていることでもあります。

江戸時代末期の長州藩(現在の山口県)に吉田松陰という人物がいたことをご存じの方も多と思います。この方は、目標に向かう自分の気持ちを志とし、その志を大切にしながら日々実行していたそうです。そして、右記の言葉を残しました。さらに、吉田松陰は、目標を決めるだけでは十分ではない。なぜ、その目標を定めるのか、その目標を達成する意味は何か、と目標への意味を自分で明らかにしたり、価値あることだろうかと自分でしっかり考えたりすることが大切だと教えていたようです。つまり、気持ちが入り、強い意志があれば、目標について志をもち、気持ちは高まる、そして、自分という人間の立ち位置が定まるというわけです。

人は何かを始めようとするとき、自分は何のために実行するのだろうか、ふと考えるものです。勉強やスポーツ、様々な体験活動など、日常の学校生活にその場面はいくつもあります。そして、人が行動するには、行動した結果何が生まれるのか、とも考えます。この考え方は、目標を定め、目標達成のための計画や実行方法をつくり、ワンステップずつ達成していくことになるマネジメントと言えます。この志を自分で定め、実行する大切さは、幕末から明治にかけてたくさんの人に受け継がれたそうです。日本の初代総理大臣であり、吉田松陰の教え子である伊藤博文も16歳くらいで自らの志を定めたとされています。志を持つことで、人間は自己指導能力を身につけていく、とすれば、吉田松陰の言う、まずは志を定めるところから、すべては始まるという教えは理にかなっていて、現代の教育の考え方にも通じる面があると、私は感じています。

今日から3学期、短い学期ですが今年度の「まとめ」と来年4月からへの「準備期」となる大切な学期です。3年生は進路決定と卒業。1、2年生は進級に向けた準備と意識向上。今、できることを頑張ることで将来の夢や目標につなげていけるよう、生徒一人一人が、自分の夢や目標を達成するため、「志」をもって実行し、健康に留意して、充実した学期となることを期待しています。

最後に、学校評価についてご協力ありがとうございました。皆様のご意見を確認しながら生徒・職員の評価結果も含め、分析については学校全体で進めて参ります。



見やすいユニバーサルデザインフォントを使用しています。次号2月1日(水)に発行予定です。

「志定まれば、氣盛んなり」

解説

志とは、心に決めた目標に向けて進もうとする気持ち、決心のこと。したがって、この言葉の意味は、「目標への気持ちが志としてはつきりすれば、自ずとやる気や意欲が生じる」ということ。